



校報

水糸者

No. 1286

元年度・第145号

みんな大好き！「脳力の日」

平成29年度から、種小っ子の健全な発達の願い始めている毎週水曜日の「脳力の日」では、子どもはもちろん、担任も心も体も開放させて校庭を走り回っています。寒くても、雪が積もっても本校の「脳力の日・全体遊び」は続きます。

20日に積もった雪が残る昨日の朝も、校庭中に種小っ子の笑顔が溢れ歓声が響いています。



種小っ子が「集う」、「関わる」、「ふれあう」姿



先生が開放した姿で子どもと一緒に遊ぶ事で子ども達には安心感が。



自分たちでルールを決めて遊びを楽しむ種小っ子。遊びの中で「がまん」や「順番を守る」、「友と共に」、「友と折り合いをつける」などの、社会の一員として暮らしていける『社会性』、『マナー』も身につけていくのです。遊びを通して、『人間関係力』、『人間調整力』も養われていくのです。

上級生が下級生の意見を、しっかりと聞き取っている場面。

以前、岩手日報には『教諭57%過労死ライン』、『トイレにも行けない』、『課せられる役割、増加の一途』という、学校現場のショッキングな記事が掲載され、波紋を呼びました。本校の職員も例外ではなく、子どもとゆっくり遊ぶ時間の確保がなかなか難しくなっていますが、その事も解決できる良い機会にも『脳力の日』はなっています。

「脳力の日・全体遊び」は、平成30年度の「生徒指導久慈第106号」にも掲載されました



水曜日の「かがやきタイム」では、音読や視写を繰り返します



平成29年度から始まっている「脳力の日」を子ども達も楽しみにしているようで、水曜日の登校時刻が早くなった子もたくさんいます。

毎週水曜日の「脳力の日」では、学童期の脳の発達に良いとされている五感（嗅覚・触覚・味覚・視覚・聴覚）を刺激する活動の1つとして、朝に「全校縦割り遊び」や「学級遊び」を、かがやきタイムの時には「音読」や「視写」を行っています。

これは、最近急激に進んでいる3つの間（時間・空間・仲間）の減少を要因とした、遊び場や異年齢集団での遊びがどんどん失われ、子どもの遊びが携帯型ゲームに代表される『身体を動かさない』、『五感を刺激しない』、『友との良好な関りが少ない』遊びが中心となっていることなどを憂慮し始まったものです。

少子化や情報化社会などを含めての、社会環境の急激な変化は子ども達が『人生100年時代』を、幸せに豊かに生き抜くために欠かせない、小学校の時期に大きく発育・発達する『脳』と『骨』には厳しい時代となりつつあります。

「全校遊び」では、それぞれ広い校庭いっぱいを使い、笑顔で歓声をあげながら走り回ります。そんな種小っ子の姿は「健康な学校」であることが実感できる時間でもあり、最高にうれしいものです。

少子化・多忙化の中で生きている、子ども達に「五感を使っての集団遊び」は、学校で意図的に行わなければいけない大切な『教育活動』となっています。

友と共に笑顔で遊ぶ事やひたすら「音読」や「視写」を繰り返す事は『脳力』を刺激する良い教育活動です。『脳力』をしっかりと鍛え、「能力」を伸ばしていく教育活動をしっかり行っている種市小学校です。

よい学びに適した環境を



22日（水）に本校・学校薬剤師の川崎正一郎さんが来校し、教室内の空気や照度などの環境調査を行いました。子ども達が健康でしっかりと学ぶためには、教室環境がとても重要な要素となります。

定期的に教室内の空気や照度を測定し、より望ましい環境を保っていく事も、大切な教育活動の1つです。

今回もまた、川崎薬剤師さんから、子どもに良い教育環境についてたくさん指導と助言をいただきその助言を活かし、早速『換気』と『湿度の適正管理』の徹底を繰り返す種市小学校です。

